

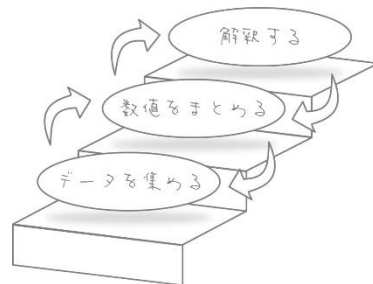


平成29年度

保健師等スキルアップ勉強会報告書

平成29年10月17日 特定非営利活動法人地域福祉ネットワークいわき事務局

地域診断 地域をみる統計



今回の勉強会では、保健師に求められる看護技術の一つである地域診断の基本的な知識、そして地域をみるための統計について学びました。

勉強会の様子

本日は一日の勉強会でした。午前は、はじめにグループワークにより地域診断の意義と各地域包括支援センターでの取り組みについて共有しました。その後、地域診断に統計を活用する利点、わかりやすくデータを示すための工夫、特にグラフの特徴などについて学びました。

午後は統計を活用してデータの特徴を捉え示すことを目的としたグループワークに取り組み、最後に成果を共有するため発表しました。グループワークを通して意見交換を重ねたことで、雑多なデータからその特徴をみる感覚がつかめたのではないかと思います。



▲地域をみるために必要となる統計について学んでいます。

講師紹介

福島県立医科大学医学部
健康リスクコミュニケーション学講座
小林智之 特別研究員



＊略歴：同志社大学大学院 心理学研究科 博士後期課程修了（心理学博士）。帝塚山大学 心理学部 非常勤講師（～2017年3月）、大阪府立大学 スクールソーシャルワーク評価支援研究所 非常勤研究員（～2017年3月）、福島県立医科大学 医学部 健康リスクコミュニケーション学講座 特別研究員（現職）

＊専門領域：社会心理学、社会的認知、集団間関係



▲データをわかりやすくみるため意見交換をしています。

吉田和樹 保健技師



＊略歴：福島県立医科大学大学院医学研究科修士課程修了。保健師・大学教員の経験を得て、平成29年4月から福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座の保健技師、大学非常勤講師、保健センターに勤務している。

＊専門領域：母子保健（特に父親の育児）、高齢者保健、国際保健（カンボジアの子どもを対象とした健康教育）

アンケート集計結果

参加者は15名、アンケート回収は13名でした。

評価項目	そう思う*
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	100%
時間配分は適切だった	85%
進行は適切だった	100%
講義について	
講義内容が理解できた	77%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	85%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	69%
話し合いについて	
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	100%
あなたご自身について	
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	62%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	46%

感想（一部抜粋）

* 保健師会議の時間で、「未利用者アンケート」の収集したデータを活用し、具体的に分析したい。

* エクセルでデータを使うことに苦手意識があったが、改めて学習して多くの学びがあった。他の職種の方にも使えると思いました。



*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

* 復習ポイント *

- ・ 地域診断の意義とは？
- ・ 地域をみる統計の3ステップとは？
- ・ グラフの特徴と作成する上で心がけるポイントは？



編集後記

本勉強会では地域診断の意義と実践を振り返り、保健師の皆さんは日々の保健活動を通して地域診断に必要な情報を得ていること、その情報を既存資料と合わせて分析に活用することが重要であることを共有しました。また、演習を通し、既存資料や新たに収集したデータを分析するために必要な知識と技術を習得しました。保健活動から得られたデータ・既存資料を活用し、担当する地域住民の健康課題を抽出し、健康課題を解決するための保健活動を展開していくことが大切だと思います。